

2008年3月13日
日本銀行

野田審議委員記者会見要旨

2008年3月12日(水)
午後2時から約25分
於 前橋市

(問) 今日の金融経済懇談会ではどのような意見交換が行われたのでしょうか。

(答) 本日の懇談会では、当地の経済界、金融界を代表する方々から地域経済の現状や金融政策運営に関する貴重なお話、率直なご意見を数多く頂き、極めて有意義な意見交換ができました。幅広い意見を伺いましたが、要約すると次のようなことになるかと思えます。

まず、群馬県経済は北関東自動車道を始めとする道路網の整備に下支えされているほか、今後も行政主導のもとで社会基盤、産業基盤の整備に一段と取り組んでいくといった力強いお話を頂き、私としてもこうした動きに期待しています。

また、輸出関連企業のウェイトの高い当地においても、先行きの為替相場、原材料価格の動向について高い警戒感を抱いている点についての示唆を受けました。わが国経済の先行きを展望するうえでは、輸出を起点とした生産・所得・支出の循環メカニズムの継続性がキーポイントとなりますが、この点についてより注意深くみていくことが重要であると、改めて認識したところであります。

さらに、企業規模、地域、業種による景況感のバラツキが拡大しているほか、中小企業の資金繰りが若干タイト化しているとのお話を伺いましたが、この点、私としても同様の認識にあります。日本銀行の金融政策を通じて個別の地域や業種に働きかけることは難しいことですが、より息の長い経済成長を図っていくことがますます重要になっているということを感じた次第であります。

(問) 審議委員は、群馬県経済の現状をどのようにみていらっしゃいますか。

(答) 群馬県の景気は、総括すると拡大しているということとなります。すな

わち、公共投資が低調に推移し、住宅投資はこのところ減少しているものの、個人消費が底堅く推移しているほか、海外需要の好調から輸出が引き続き増加しており、そのもとで、生産は増加、設備投資も企業収益が6年連続の増益計画となる中、高水準を維持しています。

当地の経済について全国と比較すると、短観の業況判断D.I.が直近3回の調査で連続して、全国の日銀の支店の中で最も良好な結果となったほか、有効求人倍率も全国2位と高く、一人当たり名目賃金も全国を上回る伸びとなるなど、全体として元気な地域に属しているように思えます。その背景としては、製造業、特に、輸出関連業種のウェイトが高いこと、旺盛な工場立地が生産活動や建設、物流等に好影響を及ぼしていること等が指摘できます。

ただ、当地に限らず、全国的にも言えることですが、昨今の原材料価格の高騰などが各企業、なかでも中小企業の採算を圧迫しているほか、製造業の好調さに比べ、非製造業の回復テンポが遅れ気味であるなど、業種、企業規模、地域により業況感に差異がみられています。こうした点については、十分注意してみていく必要があると考えており、今後も日本銀行としては前橋支店を通じてモニタリングを続けて参りたいと考えています。

（問） 群馬県内では「景気拡大の割にはその実感が乏しい」といった声が聞かれています。こうした見方に対してはどのような見解をお持ちですか。

（答） 先ほども申し上げましたとおり、業種、企業規模、地域により業況感に差異がみられており、製造業の好調さに比べ、非製造業の回復テンポは遅れ気味です。消費についてみると、当県の場合、一部消費需要の東京への流出がみられ、ガソリンや身の回り品等の物価上昇が、「日本一の車社会」である当地の実質購買力を低下させ、消費者マインドを押し下げているものと思われます。

（問） 今日の日銀総裁・副総裁人事で一部の方を除いて参院で不同意となりましたが、総裁人事を巡る混乱が市場に与える影響をどのようにみていらっしゃいますか。

（答） 総裁・副総裁人事については、現在、政府・国会で審議が進んでいる段

階ですので、コメントを差し控えさせていただきます。

（問） 本日の金融経済懇談会において、「輸出を牽引車とした生産・所得・支出の循環メカニズムが、決定的に途切れてしまう蓋然性を示唆するような明確な根拠が揃っている訳ではない」とおっしゃっています。途切れてしまうということは、メインシナリオよりもリスクシナリオの確率が高まるということになるかと思いますが、今の時点でメインシナリオの確率がなくなっているのでしょうか。また、もしリスクシナリオの確率が高まるとなると、日本経済が後退局面に入ってしまうという意味でのリスクシナリオなののでしょうか。その辺りの見通しをお聞かせ下さい。

（答） リスクシナリオのリスクウェイトについては、本日の挨拶要旨を仔細に見て頂ければお分かり頂けると思いますが、金融経済懇談会においてメインシナリオの確率が高いとか、リスクシナリオの確率の方が高いとか、どちらが高いということを申し上げた訳ではありません。また、仮にリスクシナリオが顕現化した場合にどういう状況になるのかといったことについて、私としては、こうなればこうなるだろうといった見方を今の段階で持ち合わせている訳ではありません。

（問） 足もと円高基調となっていますが、日本経済への影響をどのようにみているのでしょうか。

（答） 一般的な見方と変わりはないと思いますが、短期的には輸出企業に与える影響が一番大きな問題とみています。ただし、もう少し時間軸を伸ばして考えた場合には、交易条件は良い方向に改善していく訳ですし、わが国経済全体の所得形成力としてはプラスの方向に向かうということもありますので、中長期的な影響もみていかなければならないのではないかとともに思います。

（問） 審議委員が、新しい総裁・副総裁に望むことはどのようなことでしょうか。

（答） わが国の中央銀行を代表する方として選ばれる訳ですから、私の意見がどうのこうのというよりも、当然、世の中の方々が期待するないしは期待されるに十分な方が選ばれるのであらうと思っています。

（問） 前橋市は県内の他の都市と比べこのところ地盤沈下が指摘されています。審議委員は全国各地を歩いていると思われますが、前橋市内の街並みの率直な感想をお聞かせ下さい。

（答） 私自身、全国各地を歩いている訳ではありませんので、他の県庁所在地との比較は難しいところであります。そこで、私の出身地である山口県の県庁所在地である山口市と比べると、従来、山口市の地価水準は全国の県庁所在地の中で最下位でしたが、今は前橋市が最下位ということで非常に驚いているところです。昨日、県庁のトップフロアから町並みを拝見したところ、前橋市の広さに驚いたところであります。もっとも、少し街中を歩いてみると空きビル等が目立っており、他の地方都市にもみられることですが、好ましくない状態のところもみられます。本日の金融経済懇談会の席上において、県等が対策を採ろうとされているようですので、今後の動きを見守っていきたいと思っています。なお、群馬県全体としては全国の中でも元気の良い県であることは間違いないと思いますので、今後に期待ができると確信したところであります。

（問） 昨日、5 中銀において、各国の短期金融市場で資金供給を拡大するとの緊急声明がありましたが、国際金融市場が緊迫した状況となっているということでしょうか。また、その中での日本銀行としての役割をお聞かせ下さい。

（答） 国際金融市場は、総じて言えば、今年に入って沈静化に向かう動きもみられましたが、2 月半ばないしは 2 月末からクレジット市場で信用スプレッドの拡大等の様々な事象が生じ、そうした状況を受けて、昨日、主要中央銀行 5 行が対策を打ち出したということですので、昨日までのところは良い方向に向かっていなかったという認識をしても間違いはないと思います。

そうした中で、日本銀行としては、国内の短期金融市場は相対的に落ち着いているという認識に変わりはなく、特に、ここで屈折的な変化をもってオペレーションで対応するということは今のところ考えられないことであると思

ます。ただ、世界全体の市場動向を従来以上に注視する必要がありますし、変化に応じた機動的なオペレーションでの対応ということはますます重要になってきているという認識は、日本銀行内で共有されています。

（問） 「生産・所得・支出の循環メカニズムについて、幾つかの注意信号が点滅し始めていますが、先行き、この循環が決定的に途切れてしまう蓋然性を示唆するような明確な証拠が揃っている訳ではありません。したがって、「緩やかな拡大を続ける可能性が高い」とのメインシナリオを維持することが適当」とのことですが、これでは消極的な理由から循環メカニズムが維持されているという印象も受けます。これは、このところダウンサイドのリスクが高まり、循環メカニズムはかなり瀬戸際に来ていることを意味しておられるのでしょうか。また、注意信号が点滅し始めている訳ですが、仮に赤信号となると、政策対応は用意されているのでしょうか。さらに、ゼロ金利政策へ復帰することに抵抗感というものはあるのでしょうか。

（答） 注意信号と申し上げたのは生産・所得・支出のそれぞれのコンポーネントをみた場合、生産面は先行き増加するものと思われませんが、当面は横ばい圏内の動きが続くとみており、特に、足もとは横ばいとなっています。これは 10～12 月の生産が自動車や IT、電子部品でかなり好調であったことの反動もあると申し上げています。その他にも海外経済の先行きに対する不安も反映されている可能性も全く否定し切れないのではないかとみています。

また、所得については、企業収益は伸び悩みつつも高水準で推移しているとみています。足もとは増勢に少し鈍化がみられるという状況となっており、従来のように青信号で突っ走ってきた状態よりは、少し注意が必要と考えています。ただ、これも水準としては総じて高い利益は今後も維持されるであろうとみています。従って、瀬戸際にあるという認識ではないとはっきり申し上げることができます。将来、これが赤信号に変わるというリスクは全くは否定し切れない訳ですが、これに対応する政策はどうかと聞かれても、あくまでまだリスクの範囲内で、政策云々をここで申し上げることは適切ではないと考えています。ゼロ金利政策云々のご質問についても、その延長線上にあることであり、ここで申し上げることは適切ではないと考えています。

（問） 仮に総裁が空白となった場合、日本銀行の役割を果たすことはできるのでしょうか。

（答） 仮定のご質問へのコメントは差し控えさせて頂きたいと思います。

以 上